



精密工学研究所 ホームページアドレス : <http://www.pi.titech.ac.jp/>
ここに P&I ニュースのバックナンバーと最新版ものっております

目 次

巻頭言.....	1	人事.....	5
平成 15 年度精研総会報告.....	2	表彰関係.....	6
オープンキャンパス&すずかけ祭報告.....	2	第 39 回精研シンポジウム報告.....	7
精研公開案内.....	3	第 40 回精研シンポジウム報告.....	8
新人紹介.....	3	編集後記.....	8

巻 頭 言

大学評価・学位授与機構の評価を終わって

教授 肥後 矢吉

平成 13 年の 4 月に研究所の企画委員会で策定した方針を実行する研究体制委員会的主査を上羽所長から仰せつかった。大学の独立法人化までの 3 年間、研究所でその対応を担う大役である。国立大学の法人化に際して精研の長所を伸ばし、欠点を改める改革を進めて行く仕事である。これを如何に進めて行くかその指針をまず考えなければならなかった。



そこで理想的な研究所はどのような物かを知人と議論した。その中で印象に残ったのは学生時代からの友人でフランスの世界企業 ATOFINA Japan 京都代表フランシス・ルクワゼ博士の意見である。博士は日本の企業や大学等との連携を企画・実行する責任者である。フランス大使館の科学アタッシュ時代からの豊富な経験から「良い研究所は自由であり、かつ個人が責任をもっている」。また ATOFINA (当時は Elf) が日本の京都に研究情報拠点を作ったのは国内外への交通の利便性も有るが、フランスが日本に及ばないのは科学技術ではなく、その基となる文化であり、その中心が京都であること。即ち世界的に通用する研究には自由、責任、文化が必要である

事を夜遅く迄日本語と英語を取り混ぜて得々と説明してくれた。

理想的な研究所の条件と精研の将来像を模索している間に大学評価・学位授与機構の工学系研究評価を東京工業大学として精密工学研究所が代表で受ける事となった。

そこで以下の 4 点を軸にして評価の準備を行った。

- 1) 理想的な研究所の条件から精研の長所・欠点を明らかにする。
- 2) 常に進化し続ける研究という生き物を元気に成長・進化させる環境と、成長を止め、マンネリ化する環境とは何かを明らかにする。
- 3) 世界的に通用している評価で機構の評価に対応する方式と考え方を明らかにする。
- 4) 所員が評価に対する意識をできるだけ共通にする。

此の中で 4) は大学という自由な環境では最も難しく、上羽所長には大変な御苦勞を御掛けした。所長の御苦勞と所員や事務方の惜しみ無い協力の甲斐あって自己評価書の作成には若い所員から斬新なアイデアが多く出され、研究者の個人情報に記載する個人評価票も含めて全ての情報は実績データで裏打ちされ、研究所の長所が一瞥で解るものが出来上がった。

機構の評価結果は幸いにも良く、日本の工学系の研究ではトップクラスであることが新聞や雑誌等にも報道された。この結果に対する大学院生の反応は東京工業大学のこの分野の評価はトップであるべきで、自分達が受験時に評価した大学のレベルとして

当然の事として受け止めていた。

この評価を受ける過程で、研究所の長所・欠点が明らかになったこと、今後の改革の指針が得られた事、そして所員の職務に対する意識が場がった事は大変有益であった。この紙面をお借りして、多くのお世話になった方々に心より御礼を申し上げる。

来年4月の法人化に際して所員各自の職務と責任

を明確にし、本務に専念できる自由で文化的な環境を構築できれば、「物づくり」に軸足を置いた世界のトップクラスの成果を今後も出し続ける事ができるであろう。今後もマンネリ化しないで進化する感動の有る研究が継続する様、諸先輩をはじめ卒業生やこのニューズレターを読まれた方々の暖かい御支援と御助言・御叱責を戴きたい。

平成15年度精研総会のご報告

例年どおり5月14日14時30分より精研総会が開催されました。今年より会場が総合研究館大会議室より昨年の10月に竣工されたすずかけホールに移り、気分が一新されました。上羽所長の研究所の活性化への所信表明と来年に迫った大学法人化への約30分の説明がなされたあと、堀江教授、新野教授、渡邊教授の3人の教授がプレゼンテーションを、もち時間各々発表35分、質疑5分で行いました。この教授プレゼンテーションの趣旨は、精研の教授に任期制が採用されなかったことの見返りの一つとして実施されるもので、精密工学研究所の研究内容や環境を改善し、職員や部門間の研究協力（シナジー効果）の促進と研究所の活性化を促す事が目的となっており、今回で3回目です。昨年までは4人の教授が行いましたが、発表時間が少ないとの意見により、3人で少々時間を増やして行われました。聴講者は、精研に属する職員全員であり、前もって各教授からの資料が渡され、また手書きの記名コメント用紙と

別途配られる無記名の評価用ディスクにそれぞれ感想を書き込み提出することになっています。手書きのコメント用紙は精研全体のシナジー効果や研究協力などを促す事が目的ですので、記名式になっておりそのまま発表した教授に手渡されます。無記名の評価用ディスクの教授評価内容は、精研とは関係のない第三者によりまとめられた上で、所長を通して教授に伝えられます。なかなか教授も手を抜けない厳しい場となっています。今回の3人の教授はそれぞれの個性あふれる発表をこなしていました。特に渡邊教授の発表は研究のありかたについての示唆に富んだ話で、一般論としての教授の研究評価の難しさを如実に感じさせるものでした。

このあと、場所を町田に移して、精研職員の親睦会である成健会主催の新人歓迎ボーリング大会とその懇親会が和やかに執り行われました。

(文責 横田 眞一)

オープンキャンパス&すずかけ祭参加後記

本年のすずかけ祭は5月10日(土)・11日(日)に、オープンキャンパスは5月9日(金)・10日(土)に開催された。例年すずかけ祭は10月に開催されていたが、大岡山の工大祭の時期からずらすなどの理由により、今回から春に開催時期を設けることになったようである。また昨年から実施しているオープンキャンパスの時期にも合わせることができ、地域の住民の方々向けの催しに加えて来年の入学を目指す学部4年生向けの研究室公開という多少異なる趣の取り組みを行うことになった。5月10日は両者同時開催となった。

すずかけ祭のイベントとしては、特別企画として大学会館3F 多目的ホールにて講演会が開催された。昨年度に文部科学省COE21プログラムに対して本学の4課題が採択されたが、その取り組みについて各拠点リーダから説明がなされた。科学技術振興事業団の北澤宏一氏をお呼びして「科学技術者のみた日本・経済の夢」と題した講演会も催された。また本学の管弦楽団に依頼してミニコンサートを初めての試みとして開き、結構評判がよかったようである。もちろん精研内の研究室も公開を行い、出店を構えた研究室も見受けられた。

オープンキャンパスの取り組みとしては多目的ホールにおいて総合理工学研究科の各専攻の説明を

行い、学生が興味を持った研究室を自由に見学するコースを用意した。こちらに関して精研の各研究室が来年度の新生候補者に対して研究内容をアピールすべく、パネル展示やデモンストレーションを準備して望んだ。

参加者数はすずかけ祭1400名、オープンキャンパスが1750名(大学院生1620名、学部生130名)であった。人数からも伺えるように盛況で、また同時開催による目立った混乱もなく無事終了した。

(文責 植之原 裕行)



すずかけ祭での出店の風景

精密工学研究所公開

ごあいさつ

平成 6 年に開催された精密工学研究所外部評価委員会で、「社会に開かれた研究所へ向けたさらなる努力」を求められ、爾来毎年精研公開を実施してきており、今回で 10 回目になります。ご承知のように、科学技術創造立国を支える施策の一つとして、平成 16 年度には、大学における「世界水準の教育研究の展開」、「社会への説明責任の重視」、「機動的大学運営の実現」をその内容とする「大学の独立行政法人化」が実施され、精密工学研究所はますます「精密工学の先端的研究拠点 (COE) の役割」を果たすことが求められています。

このような流れの中で、本年度から精密工学研究所を含むすずかけ台キャンパスにある研究および教育研究組織が中心となり、技術者、研究者、企業家、起業家などの専門家を対象として「すずかけ台キャンパス学術・研究公開」を実施することになりました。精研公開はその一部として実施されます。

皆様方におかれましては大変お忙しいとは存じますが、是非とも東工大すずかけ台キャンパスにお出かけ頂き、精密工学研究所の研究設備・装置を間近にしなごら、研究の目的や進行状況を知っていただくと同時にご意見を開陳いただき、それらの議論を

研究にフィードバックすることで益々世界に誇る研究を進展させたいと願っております。またこのような交流を通して、産学連携、大学と地域の連携も大いに進むものと期待されます。皆様の本研究所への一層のご理解とご支援をお願いいたします。

東京工業大学 精密工学研究所長 上羽 貞行

プログラム

日時 2003 年 10 月 24 日 (金)

研究室公開 (各会場)

10:00 ~ 17:00

技術相談案内 (R 2 棟 1 階受付)

10:00 ~ 12:00, 13:00 ~ 15:00

技術講演会 (総合研究館大会議室)

15:00 ~ 17:00

高島 和希 助教授 「マイクロサイズ材料試験とその材料開発への展開」

樋口 俊郎 教授 「静電気力を利用したマニピュレーション技術の展開」

新 人 紹 介

知能化学工部門
助教授 張 曉林

この度、6 月 1 日付けで知能化学工部門認知機構研究分野の助教授として着任いたしました張曉林です。1995 年に横浜国立大学工学研究科生産工学専攻博士課程を修了し、その後、東京医科歯科大学保健衛生学研究所生体機能支援システム開発学専攻の助手として約 8 年間勤めてまいりました。

私は横浜国立大学に在籍した 8 年間 (修士課程 2 年、寄附講座助手 3 年、博士課程 3 年)、ロボット工学を中心に学習制御、人工知能、視覚センサについて研究をしました。東京医科歯科大学に就職してからは主に生理学・解剖学を基にした眼球運動神経制御システムのモデリングや神経細胞の電気的等価回路、医療器械などについて研究を行ってきました。

私にとって、工学畑で十数年間勉強・研究した後、生物学と医学の領域に足を踏み入れることは、戸惑いの後に大きな喜びを感じることとなりました。エンジニアとしての医学領域には未開の肥沃の処女地が多いことを直感したからです。例えば、視覚センサを研究した私には生物の眼球運動の特徴から多くのヒントを得られ、ロボットは人間のような眼球運動を実現することは人間の視覚能力、特に立体認識能力を得るための鍵ではないかと考えるようになり



ました。この考え方を基にして、これまでのロボット工学の知識をベースに眼球運動制御神経システムをシステム制御工学の立場からモデル化し、ロボットの眼の制御に応用してきました。これ以外に、神経細胞の電気的等価回路など、神経の機能を工学的に実現するための研究も行っています。精研では、材料から機械・電子・制御などの冠たる専門家が揃っていらっしゃいますので、是非、私の研究にご興味を持って下さり、共同で色々な研究ができれば幸いと存じます。皆様のご指導ご鞭撻を賜れますようお願い申し上げます。

高機能化システム部門
助教授 柳田 保子

この度、2003 年 4 月 1 日付けで、高機能化システム部門助教授に着任致しました柳田保子です。私は、1995 年に本学生命理工学研究科バイオテクノロジー専攻の博士課程を修了した後、本学生命理工学部生物工学科助手に着任し、生命理工学研究科助手を経て、2002 年 3 月より同研究科講師を勤めて参りました。

専門分野は生物工学です。遺伝子工学・細胞工学的手法を用いて、生物に兼ね備えられている遺伝情報、細胞情報、生体分子情報を工学的にデザインし、超生物機能を有するインテリジェントバイオシステ



ムの構築を目指して参りました。特に細胞は生命体の基本ユニットであり、その中には生命活動を維持し、外部環境変化にすばやく応答するための生命情報分子ネットワークが張り巡らされています。この情報ネットワークの制御機構に着目し、外部からの物理刺激、特に微小交流電位に反応して、人為的に遺伝子発現などの機能制御を行える「電気刺激応答細胞」の構築研究に携わって参りました。

インテリジェントバイオシステムの有する超生物機能を工学的に有効活用させるためには、今やバイオサイエンス・テクノロジーだけではなく、超精密・微細加工技術によるマイクロ・ナノテクノロジーとの融合が不可欠です。今後はこのような融合領域における、将来を見据えた新テーマに挑戦していきたいと考えています。その上でも電気・機械・材料部門を有する本研究所は、最高の研究環境です。

新しい環境で研究を展開する機会を与えていただきました本研究所に心から感謝し、教育・研究に精一杯努力していきたいと思ひます。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願ひいたします。

知能化学工部門

助手 高村 大也

4月1日付けで知能化学工部門知覚情報処理研究分野の助手に着任しました高村大也です。今年3月に奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程を修了しました。



専門は自然言語処理で、人間の言葉をコンピュータで扱うことが大きな目的です。特に、統計学習手法を用いた文書自動分類などについて研究をしています。

精密工学研究所どころか、東工大自体が初めての場所なので、何かと不慣れなことも多く御迷惑をおかけすることもあると思ひますが、精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願ひ致します。

極微デバイス部門

助手 岡田 健一

平成15年4月1日付けで、極微デバイス部門電子デバイス研究分野 益研究室の助手として着任致しました岡田 健一です。本年3月に京都大学情報学研究科通信情報システム専攻博士課程を修了致しました。精研の皆様と一緒に研究を行うことができ大変うれしく思ひます。これまでは、製造ばらつきを考慮した回路シミュレーション技術を中心に大規模集積回路の設計技術について研究を行ってきました。今は、博士課程で行った高周波アナログ回路素子のモデリング技術を発展させ、高周波アナログ回路技術について研究を行っています。まだ



不慣れなことも多く、色々と御指導頂くことも多いかと思ひます。粉骨碎身頑張り所存でありますので、なにとぞ御指導御鞭撻を賜りますようお願いいたします。

精機デバイス部門

助手 森 正人

4月1日付けで北條・松村研に助手として配属になりました森正人です。以前は計算工学専攻亀井研究室で「遺跡探査」の研究に従事しておりました。遺跡探査とは、従来、主に地質や鉱物資源調査等に用いられてきた物理探査手法を遺跡の調査に適用し、発掘することなく、遺構の分布や形状、埋設深度等を推定するものです。



機械とは関係のない分野におりました私が、ご縁あって、機械系の研究室にお世話になることになりました。不慣れな点も多々ございますが、周囲の皆様のご助力で、充実した毎日を送らせて頂いております。今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

高機能化システム部門

助手 竹村 研治郎

平成15年4月1日付けで横田・吉田研究室の助手に着任いたしました竹村研治郎です。昨年、慶應義塾大学大学院理工学研究科総合デザイン工学専攻にて博士課程を修了し、助手として勤務していました。



これまでは多自由度超音波モータの開発と手術ロボットへの応用、およびパッシブフォースフィードバックを利用したマスタ・スレーブハンドの研究をしておりましたが、精密工学研究所では機能性流体を用いたマイクロアクチュエータ・マイクロマシンの研究に取り組んでいます。学際的な本研究所に少しでも貢献できるよう、努力していきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

先端材料部門

助手 稲邑 朋也

4月1日付けで、先端材料部門材料設計分野・若島細田研究室の助手に着任いたしました稲邑朋也です。大学院の5年間、肥後高島研でお世話になり、3月に学位をいただいたばかりです。



現在は主に、大学院時代に習得した透過型電子顕微鏡による結晶構造・材料組織解析を手段として、TiNiに代わる新しい形状記憶合金の開発に携わっております。

まだ不慣れなこともあり、ご迷惑をおかけすることも多々あると存じますが、どうぞよろしくお願ひ

申し上げます。

機械工場

技術専門職員 長峰 靖之

4月1日付けで機械工場に配置換えになりました。2年弱ほど応用セラミックス研究所技術室に所属していましたが、再び精研への異動となりました。精研とは異なった応セラ研での経験を生かし、これからもまた新たな気持ちで励んでいきたいと思っております。まだ何かと至らない点も有るかと思っておりますが、今後とも皆様のご指導のほど宜しくお願い申し上げます。



機械工場

技官 小屋畑 洋平

今年4月1日付けで機械工場に配置換えになりました。以前は応用セラミックス研究所の機械工場に勤務していましたが一年間の機械加工の勉強のため今回の配置換えとなりました。

始めは同じ機械を使う工場での仕事の違いに驚きましたがこちらの工場の機械加工の技術を身に付けられる様頑張りたいと思っております。一年間という短い期間ですが皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。



事務掛

事務官 本間 喜恵

この度、4月1日付けで事務掛に配属されました本間喜恵です。すずかけ台キャンパスの自然の美しさを感じ、四季の移り変わりを楽しみをしています。

初めての職場で、先生方にご迷惑をおかけしているかと思っておりますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。



人

事

転入関係

[昇任]

柳田 保子(4/1)

高機能化システム・知的システム 助教授

(旧)東工大・生命理工・生命情報学 講師

[転入(昇任)]

張 曉林(6/1)

知能化学工学・認知機構 助教授

(旧)東京医科歯科大・保健衛生学研究科 助手

[採用]

岩山 真(4/1)

知的財産利用支援システム研究部門(準連携)非常勤講師(客員助教授)

(現)日立製作所・中央研究所 主任研究員

吉岡 勇人(1/1)

精機デバイス・超微細加工 助手

(旧)東工大・総理工 博士課程修了

高村 大也(4/1)

知能化学工学・知覚情報処理 助手

(旧)奈良先端大・情報科学研究科 博士課程修了

岡田 健一(4/1)

極微デバイス・電子デバイス 助手

(旧)京都大・情報学研究科 博士課程修了

森 正人(4/1)

精機デバイス・精密機素 助手

(旧)東工大・精密工学研究所 教務補佐員

竹村 研治郎(4/1)

高機能化システム・制御システム助手

(旧)慶應大学・理工学部 助手

稲邑 朋也(4/1)

先端材料・材料設計 助手

(旧)東工大・総理工 博士課程修了

本間 喜恵(4/1)

精密工学研究所・事務掛 掛員

[配置換え]

長峰 靖之(4/1)

機械工場 技術職員

(旧)応セラ研・セラミックス機能 技術職員

小屋畑 洋平(4/1)

機械工場 技術職員

(旧)応セラ研・工場 技術職員

[再任用]

岡部 信次(4/1)

機械工場 技術職員

(旧)機械工場 技術専門職員

併任等

[併任]

肥後 矢吉(4/1)

マイクロシステム研究センター長
(現)先端材料・機能評価 教授

樋口 俊郎(4/1)

極微メカノプロセス部門(客員)教授
(現)東京大・工学研究科 教授

田中 真美(4/1)

極微メカノプロセス部門(客員)助教授
(現)東北大・工学研究科 助教授

浅見 勝彦(4/1)

バイオテック集積工学客員研究部門 教授
(現)東北大・金属材料研究所 教授

徳光 永輔(6/1)

極微デバイス・電子デバイス 助教授
(現)東北大・電気通信研究所 助教授

[命]

肥後 矢吉(6/1)

副所長
(現)先端材料・機能評価 教授

丸川 雄三(3/30)

特許情報処理(JAPIO)寄附研究部門 教員
(日々雇用扱いのため)

朴 炳垠(3/31)

共通 助手
(新)(財)新機能素子研究開発協会
[定年退職]

岡部 信次(3/31)

技術専門職員
(新)機械工場 技術職員

[転出(昇任)]

塚本 英明(4/1)

先端材料・材料設計 助手
(新)宇部工業高等専門学校 助教授

[転出]

丸田 英徳(4/1)

知能化学・ヒューマンインターフェイス 技術職員
(新)長崎大・総合情報処理センター 助手

[配置換]

石山 修(4/1)

機械工場 技術職員
(新)応セラ研・セラミックス機能 技術職員

転出関係

[辞職]

石井 隆(12/31)

先端材料・材料設計 技術職員
(新)大西国際特許事務所

表彰関係

實吉 純一(名誉教授、元精研所長、元東工大学長)
従五位(平成15年3月)

今井 聖(名誉教授)

フェロー称号贈呈者(基礎・境界ソサイエティ)
(平成14年9月11日)

貢献内容 音声の性質と聴覚特性を考慮した信号
処理に関する研究

伊賀 健一(名誉教授)

藤原賞(平成15年6月17日)
電子情報通信学会功績賞(平成15年5月28日)
IEEE Daniel E. Noble 賞(平成15年3月25日)

横田 眞一(高機能化システム・教授)

日本機械学会機素潤滑設計部門功績賞
(平成15年4月21日)
日本機械学会フェロー(平成15年3月25日)

新野 秀憲(精機デバイス・教授)

工作機械技術振興賞(論文賞)(平成15年6月18日)

橋詰 等(精機デバイス・助教授)

東工大挑戦的研究賞(平成14年12月26日)
工作機械技術振興賞(論文賞)(平成15年6月18日)

宮本 智之, 伊賀 健一, 小山 二三夫

(マイクロシステム研究センター・助教授, 名誉教
授, 同・教授)

ICF 優秀論文賞受賞(平成15年4月)

吉岡 勇人(精機デバイス・助手)

マザック財団 優秀論文表彰(平成15年6月2日)
工作機械技術振興賞(論文賞)(平成15年6月18日)

荒井 昌和(精研特別研究員)

応用物理学会講演奨励賞受賞(平成15年3月)

天野 建(物理情報システム創造専攻D3)

IEEE EDS Student Award 受賞(平成15年1月)
第17回独創性を拓く先端技術大賞ニッポン放送賞
(平成15年6月)

竹村 研治郎(高機能化システム・助手)

日本機械学会研究奨励賞(平成15年4月12日)
鄭 淵午(精密機械システム専攻D3)

日本機械学会機素潤滑設計部門奨励講演表彰（平成 15 年 4 月 21 日）

阿部 竜太郎（メカノマイクロ工学専攻 D1）
日本機械学会機素潤滑設計部門奨励講演 表彰
（平成 15 年 4 月 21 日）

訃報
實吉 純一（名誉教授、元精研所長、元東工大学長）
（平成 15 年 3 月）

第 39 回 精 研 シ ン ポ ジ ウ ム

第 39 回精研シンポジウム「フォトニックネットワークデバイスの新展開（2）」が、平成 15 年 3 月 10 日（月）に東京工業大学すずかけ台キャンパス大学会館多目的ホールで開催されました。本シンポジウムは、将来の大容量光通信ネットワークのための新しいデバイス・システム技術の討論の場を提供することを目的として昨年に引き続き企画され、下記のプログラムに示すように当該分野でご活躍の方々を招いて開催されました。学内外 130 名を超える参加者のもと、最先端の研究開発の講演と討論が行われました。

セッション A

- 10:10-10:40 宮本智之（東京工業大学）
長波長帯面発光レーザの進展
- 10:40-11:10 荒井滋久，八木英樹，大平和哉，佐野琢哉（東京工業大学）
トップダウン法による長波長量子細線レーザの現状と展望
- 11:10-11:40 中野義昭（東京大学）
光ネットワークに向けたデジタルフォトニックデバイス
- 11:40-12:10 石川 浩（FESTA）
超高速全光スイッチの開発状況
- 12:10-12:40 國分泰雄（横浜国大）
高密度集積化マイクロリングフィルタ回路
- 13:40-14:40 ポスターセッション

セッション B

- 14:40-15:10 河口仁司（山形大学）
偏光双安定面発光半導体レーザとその光信号処理への応用
- 15:10-15:40 澤田廉士（NTT）
光通信ネットワークに向けた光 MEMS デバイス
- 15:40-16:10 小山二三夫（東京工業大学）
光 MEMS とフォトニックネットワーク

セッション C

- 16:30-17:00 上塚尚登，千葉貴史（日立電線）
PLC デバイスの現状と今後の展開
- 17:00-17:30 納富雅也（NTT）
SOI フォトニック結晶スラブ
- 17:30-18:00 北山研一（大阪大学）
フォトニックネットワーク：全光化に向けて

上羽貞行精研所長の挨拶から始まり、当該研究分野での産学からの最先端の研究開発の講演、マイクロシステム研究センターの成果報告を兼ねましたポスター講演 24 件を通して活発な議論が行われ、専門家や学生にとっても実りの大きな会議となりました。本シンポジウムの開催にあたりご支援およびご協力いただきました関係各位に感謝致します。

（文責 小山 二三夫）



講演会場



ポスター会場

第 4 0 回 精 研 シ ン ポ ジ ウ ム

第 40 回精研シンポジウム「知的財産と特許情報処理」が平成 15 年 3 月 14 日（金）に東京工業大学すずかけ台キャンパス大学会館多目的ホールで開催されました。

平成 13 年 4 月、日本特許情報機構（J A P I O）の寄附を受け、特許情報処理（J A P I O）寄附研究部門が東京工業大学精密工学研究所に設立されました。平成 15 年 3 月で終了の時期を迎え、4 月以降は別の形態で研究が継続されております。その節目の時期にあたり、成果報告も兼ねて本シンポジウムを開催する運びとなりました。当日は学内外 120 名を超える参加者のもと、特許情報処理に関する最先端技術についての講演と活発な討論が行われました。本シンポジウムの開催にあたりご支援およびご協力いただきました関係各位に感謝いたします。

- 10:00 開会の辞
上羽 貞行（東京工業大学精密工学研究所長）
和田 裕（パトリス 代表取締役社長）
- 10:20-11:00 「情報学基礎からみた、これからの特許情報処理」
藤原 謙（工業所有権総合情報館）



講演の様子

- 11:00-11:40「特許庁における特許情報処理の現状と課題」
加藤 隆夫（東京工業大学，特許庁）
- 13:00-13:40「特許情報活用支援のための情報検索/自然言語処理」
岩山 真（東京工業大学，日立製作所）
- 13:40-14:20「特許情報を対象とした自動対応づけ」
丸川 雄三（東京工業大学）
- 14:20-15:00「特許請求項を対象とした言語処理」
奥村 学，新森 昭宏（東京工業大学）
- 15:20-16:00「多言語特許検索システムの研究開発」
藤井 敦（筑波大学）
- 16:00-16:40「特許情報における検索と分析の融合」
松井 くにお（富士通研究所）
- 16:40-17:20「特許文献への類似文書検索の適用」
中谷 洋一（NTTデータテクノロジー）
- 17:20 閉会の辞
寺本 義憲（日本特許情報機構(JAPIO)専務理事）
- 17:30- デモセッション(4件の展示，デモ)

（文責 岩山 真）



質疑応答

編 集 後 記

今年は、冷夏であったが、東工大の学生は熱かった。手作り小型人工衛星の打ち上げ成功、3連覇は逃したものの鳥人間コンテストでの人力プロペラ機による30kmを越える飛行。最近、大学の独立法人化、大学評価と、重苦しい話題が先行するが、それだけではなく、このP&Iニュースでは、今後、学生に負けない夢のある、元気がでる情報も発信で

きればと思う。

なお、本号は益委員長、北條、堀江、渡邊、高島、奥村、植之原、松村、進士の各委員と、広報室神本、肥後・高島研石山助手の協力のより編集されたものです。

（文責 進士 忠彦）